

大学番号：023

注3

意見伺い（JD）

[平成30年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科
東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻（博士課程）

注2

【意見伺い（JD）】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 東京医科歯科大学
平成30年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学長戦略企画課

職名・氏名 ワカヤマ トモヒロ
若山 友啓

電話番号 03-5803-5021

（夜間） 03-5803-5021

F A X 03-5803-0273

e-mail houki.adm@tmd.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

医歯学総合研究科

＜東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻（博士課程）＞		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 授業科目の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	・・・・・・・・・・・・・・・・	9
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	10
5. 教員組織の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	12
6. 留意事項等に対する履行状況等	・・・・・・・・・・・・・・・・	28
7. その他全般的事項	・・・・・・・・・・・・・・・・	31

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人東京医科歯科大学

【連携外国大学の設置者】タイ王国チュラロンコーン大学

(2) 大学名

東京医科歯科大学大学院

【連携外国大学の名称】

Chulalongkorn University (จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย)

(3) 大学の位置

〒113-8510

東京都文京区湯島1-5-45

【連携外国大学の本部の位置】

254 Phayathai Road, Pathumwan, Bangkok

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
学長	(ヨシザワ ヤスキ) 吉澤 靖之 (平成26年4月)		
研究科長	(エイ ヨシノブ) 江石 義信 (平成28年4月)	(オキチ 隆史) 興地 隆史 (平成29年4月)	研究科長交代のため 平成29年4月1日(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
医歯学総合研究科 東京医科歯科大学・チュ ラロンコーン大学国際連 携歯学系専攻(博士課程) 博士(歯学)	歯学関係	5 年	3 <322> 人	15 <1044> 人	基礎となる学部等 歯学部歯学科

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ < >内の数字は, 母体となる研究科等の全体の入学定員を記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成28年度	8月入学	8月入学	8月入学	8月入学	8月入学		
A 入学定員	3人 (-) [-]	-	3人 (-) [-]	-	3人 (-) [-]	-	1.00 倍	[]内には, チュラロンコーン大学で入学手続きを行った外国籍の学生数を記載。なお, 当該学生は, 学生ビザを取得した後, 2年次に日本に來日する。
志願者数	9 (-) [9]	- (-) [-]	6 (-) [6]	- (-) [-]	7 (-) [7]	- (-) [-]		
受験者数	8 (-) [8]	- (-) [-]	6 (-) [6]	- (-) [-]	5 (-) [5]	- (-) [-]		
合格者数	3 (-) [3]	- (-) [-]	3 (-) [3]	- (-) [-]	選考中 (-) []	- (-) [-]		
B 入学者数	3 (-) [3]	- (-) [-]	3 (-) [3]	- (-) [-]	選考中 (-) []	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A	1.00		1.00					

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ 「春季入学」, 「その他の学期」については, 各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。(例)「春季入学」→「4月入学」, 「10月入学」等
- ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	8月入学	その他の学期	8月入学	その他の学期	8月入学	その他の学期	
1年次	3 [-] (-)	- [-] (-)	3 [3] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	[]内には、チュラロンコーン大学で入学手続きを行った外国籍の学生数を記載。なお、当該学生は、学生ビザを取得した後、2年次に日本に来日する。
2年次	/		3 [-] (-)	- [-] (-)	6 [6] (-)	- [-] (-)	
3年次			/				
計	- [-] (-)				3 [3] (-)		

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科の入学時期に合わせて表を修正してください。
(例) 「春季入学」→「4月入学」、「10月入学」等
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成28年度	3人	0人	平成28年度	0人	0人	
平成29年度	6人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
平成30年度	6人	0人	平成28年度	0人	0人	
			平成29年度	0人	0人	
			平成30年度	0人	0人	
合計	6人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医歯学総合研究科 東京医科歯科大学・チュラロンコン大学国際連携歯学系専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
基礎科目	歯科矯正学総論		1前	チュラロンコン大学	1			1	1			
	歯科矯正学基礎		1前	チュラロンコン大学	2				1	1		
	基礎歯科矯正学セミナー		1前	チュラロンコン大学	1			1	1			
専門科目	論文・博士論文セミナー		後・3通・4	チュラロンコン大学	24			1				
	咬合機能矯正学特論		2前	東京医科歯科大学	6			1	3	6		
	咬合機能矯正学研究実習		2通	東京医科歯科大学	8			1	3	6		
	咬合機能矯正学実験・論文作成		2・3・4・5後	東京医科歯科大学	10			1	3	6		
	顎顔面矯正学特論		2前	東京医科歯科大学	6			1	1	5		
	顎顔面矯正学研究実習		2通	東京医科歯科大学	8			1	1	5		
	顎顔面矯正学実験・論文作成		2・3・4・5後	東京医科歯科大学	10			1	1	5		
臨床科目	歯科矯正学技法		1前	チュラロンコン大学	3			1	1			
	包括的治療手順		1前	チュラロンコン大学	2			1	1			
	上級歯科矯正学セミナー		1前	チュラロンコン大学	1				1			
	矯正演習		1前	チュラロンコン大学	1				1			
	矯正臨床トレーニング1		3後	チュラロンコン大学	2			1	1			
	矯正臨床トレーニング2		3休	チュラロンコン大学	1			2	1			
	矯正臨床トレーニング3		4前	チュラロンコン大学	3			2	1			
	上級矯正臨床トレーニング1		4後	チュラロンコン大学	2			1	1			
	上級矯正臨床トレーニング2		4休・5通・6休	チュラロンコン大学	4			1	2			
	歯科用写真		5前	チュラロンコン大学	1			1	1			
	歯科矯正学におけるコンピューター		5前	チュラロンコン大学	1			1	1			
歯科矯正学教育実習		5前	チュラロンコン大学	1				2				
研究指導		-	東京医科歯科大学	○			14	5	6	13		
研究指導		-	チュラロンコン大学	○			2	2				

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
基礎科目	歯科矯正学総論		1前	チュラロンコン大学	1				2	1		
	歯科矯正学基礎		1前	チュラロンコン大学	2				2	4	1	
	基礎歯科矯正学セミナー		1前	チュラロンコン大学	1				1	6	2	
	骨生物学		1前	チュラロンコン大学	2							
専門科目	論文・博士論文セミナー		後・3通・4	チュラロンコン大学	24				3	2		
	咬合機能矯正学特論		2前	東京医科歯科大学	6			1	1	3	5	
	咬合機能矯正学研究実習		2通	東京医科歯科大学	8			1	1	3	5	
	咬合機能矯正学実験・論文作成		2・3・4・5後	東京医科歯科大学	10			1	1	3	5	
	顎顔面矯正学特論		2前	東京医科歯科大学	6			1	1	1	4	
	顎顔面矯正学研究実習		2通	東京医科歯科大学	8			1	1	1	4	
	顎顔面矯正学実験・論文作成		2・3・4・5後	東京医科歯科大学	10			1	1	1	4	
臨床科目	歯科矯正学技法		1前	チュラロンコン大学	3				1	5		
	包括的治療手順		1前	チュラロンコン大学	2				1	4	2	
	上級歯科矯正学セミナー		1前	チュラロンコン大学	1				1	6	2	
	矯正演習		1前	チュラロンコン大学	1					3	1	
	矯正臨床トレーニング1		3後	チュラロンコン大学	2			1	1		0	
	矯正臨床トレーニング2		3休	チュラロンコン大学	1				2		1	
	矯正臨床トレーニング3		4通	チュラロンコン大学	4				2		0	
	上級矯正臨床トレーニング1		4休	チュラロンコン大学	1			1	1		0	
	上級矯正臨床トレーニング2		5通	チュラロンコン大学	3			1	1		0	
	歯科矯正学における写真とコンピューター		5前	チュラロンコン大学	1			1	1		0	
	歯科矯正学教育実習		5前	チュラロンコン大学	1				1	1	0	
研究指導		-	東京医科歯科大学	○			17	3	8	10		
研究指導		-	チュラロンコン大学	○			2	2				

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
基礎科目	歯科矯正学総論		1前	チュウロンコン大学	1			1	1	1		
	歯科矯正学基礎		1前	チュウロンコン大学	2			1	2	1	3	
	基礎歯科矯正学セミナー		1前	チュウロンコン大学	1			1	2	2	3	
専門科目	論文・博士論文セミナー		1後・3通・4	チュウロンコン大学	24			1	2	1		
	咬合機能矯正学特論		2前	東京医科歯科大学	6			1	1	3	5	
	咬合機能矯正学研究実習		2通	東京医科歯科大学	8			1	1	3	5	
	咬合機能矯正学実験・論文作成		2・3・4・5後	東京医科歯科大学	10			1	1	3	5	
	顎顔面矯正学特論		2前	東京医科歯科大学	6			1		1	4	
	顎顔面矯正学研究実習		2通	東京医科歯科大学	8			1		1	4	
	顎顔面矯正学実験・論文作成		2・3・4・5後	東京医科歯科大学	10			1		1	4	
臨床科目	歯科矯正学技法		1前	チュウロンコン大学	3			1	2	1	2	
	包括的治療手順		1前	チュウロンコン大学	2			1	2	3	2	
	上級歯科矯正学セミナー		1前	チュウロンコン大学	1			1	2	2	3	
	矯正演習		1前	チュウロンコン大学	1			1	2	1		
	矯正臨床トレーニング1		3後	チュウロンコン大学	2			1	1		0	
	矯正臨床トレーニング2		3休	チュウロンコン大学	1				0		1	
	矯正臨床トレーニング3		4通	チュウロンコン大学	4				1		1	
	上級矯正臨床トレーニング1		4休	チュウロンコン大学	1			1	0		1	
	上級矯正臨床トレーニング2		5通	チュウロンコン大学	3			1			1	
	歯科矯正学における写真とコンピューター		5前	チュウロンコン大学	1			1			1	
歯科矯正学教育実習		5前	チュウロンコン大学	1						2		
研究指導		-	東京医科歯科大学	○			17	3	8	10		
研究指導		-	チュウロンコン大学	○			2	2				

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

・ 担当者変更のため、「歯科矯正学総論」の専任教員等の配置を「准教授1」、「講師1」から「准教授1」、「講師1」、「助教1」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「歯科矯正学基礎」の専任教員等の配置を「講師1」、「助教1」から「教授1」、「准教授2」、「講師1」、「助教3」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「基礎歯科矯正学セミナー」の専任教員等の配置を「准教授1」、「講師1」から「教授1」、「准教授2」、「講師2」、「助教3」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「論文・博士論文セミナー」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」、「講師2」、「助教1」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「咬合機能矯正学特論」の専任教員等の配置を「教授1」、「講師3」、「助教6」から「教授1」、「准教授1」、「講師3」、「助教5」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「咬合機能矯正学研究実習」の専任教員等の配置を「教授1」、「講師3」、「助教6」から「教授1」、「准教授1」、「講師3」、「助教5」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「咬合機能矯正学実験・論文作成」の専任教員等の配置を「教授1」、「講師3」、「助教6」から「教授1」、「准教授1」、「講師3」、「助教5」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「顎顔面矯正学特論」の専任教員等の配置を「教授1」、「講師1」、「助教5」から「教授1」、「講師1」、「助教4」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「顎顔面矯正学研究実習」の専任教員等の配置を「教授1」、「講師1」、「助教5」から「教授1」、「講師1」、「助教4」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「顎顔面矯正学実験・論文作成」の専任教員等の配置を「教授1」、「講師1」、「助教5」から「教授1」、「講師1」、「助教4」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「歯科矯正学技法」の専任教員等の配置を「准教授1」、「講師1」から「教授1」、「准教授2」、「講師1」、「助教2」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「包括的治療手順」の専任教員等の配置を「教授1」、「助教1」から「教授1」、「准教授2」、「講師3」、「助教2」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「上級歯科矯正学セミナー」の専任教員等の配置を「助教1」から「教授1」、「准教授2」、「講師3」、「助教2」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「矯正演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「准教授1」、「講師2」、「助教1」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「矯正臨床トレーニング1」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授1」、「助教1」を「教授1」、「准教授1」、「助教0」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「矯正臨床トレーニング2」の専任教員等の配置を「准教授2」、「助教1」から「准教授0」、「助教1」に変更。
 ・ チュラロンコン大学にて履修年次及び単位数が変更されたため、「矯正臨床トレーニング3」の配当年次を「4前」から「4通」、単位数を「3」から「4」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「矯正臨床トレーニング3」の専任教員等の配置を「准教授2」、「助教1」から「准教授1」、「助教1」に変更。
 ・ チュラロンコン大学にて履修年次及び単位数が変更されたため、「上級矯正臨床トレーニング1」の配当年次を「4後」から「4休」、単位数を「2」から「1」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「上級臨床トレーニング1」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授1」、「助教1」から「教授1」、「准教授0」、「助教1」に変更。
 ・ チュラロンコン大学にて履修年次及び単位数が変更されたため、「上級矯正臨床トレーニング2」の配当年次を「4休・5通・5休」から「5通」、単位数を「4」から「3」に変更。
 ・ 担当者変更のため、「上級臨床トレーニング2」の専任教員等の配置を「教授1」、「助教2」から「教授1」、「助教1」に変更。
 ・ 授業内容をより充実させるため、類似している「歯科用写真」及び「歯科矯正学におけるコンピューター」を「歯科矯正学における写真とコンピューター」の1科目に統合。
 ・ 職位及び担当者変更のため、「研究指導」の専任教員等の配置を「教授14」、「准教授5」、「講師6」、「助教13」から「教授17」、「准教授3」、「講師8」、「助教10」に変更。

【平成30年度】

・ 職位変更のため、「歯科矯正学総論」の専任教員等の配置を「准教授1」、「講師1」、「助教1」から「准教授2」、「講師1」、「助教0」に変更。
 ・ 職位変更のため、「歯科矯正学基礎」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授2」、「講師1」、「助教3」から「教授2」、「准教授4」、「講師1」、「助教0」に変更。
 ・ 職位変更のため、「基礎歯科矯正学セミナー」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授2」、「講師2」、「助教3」から「教授1」、「准教授6」、「講師2」、「助教0」に変更。
 ・ チュラロンコン大学の授業をより充実させるため、「骨生物学」、「上級矯正臨床トレーニング3」、「歯学研究提案書作成」及び「歯学研究報告書作成」の科目新たに追加。
 ・ 職位及び担当者変更のため、「論文・博士論文セミナー」の専任教員等の配置を「准教授1」、「講師2」、「助教1」から「准教授3」、「講師2」、「助教0」に変更。
 ・ 職位変更のため、「歯科矯正学技法」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授2」、「講師1」、「助教2」から「教授1」、「准教授5」、「講師0」、「助教0」に変更。
 ・ 職位及び担当者変更のため、「包括的治療手順」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授2」、「講師3」、「助教2」から「教授1」、「准教授4」、「講師2」、「助教0」に変更。
 ・ 職位変更のため、「上級歯科矯正学セミナー」の専任教員等の配置を「教授1」、「准教授2」、「講師2」、「助教3」から「教授1」、「准教授6」、「講師2」、「助教0」に変更。
 ・ 職位変更のため、「矯正演習」の専任教員等の配置を「准教授1」、「講師2」、「助教1」から「准教授3」、「講師1」、「助教0」に変更。
 ・ 職位の変更のため、「矯正臨床トレーニング2」の専任教員等の配置を「助教1」から「准教授2」、「助教1」に変更。
 ・ 職位の変更のため、「矯正臨床トレーニング3」の専任教員等の配置を「准教授1」、「助教1」から「准教授2」、「助教0」に変更。
 ・ 職位の変更のため、「上級臨床トレーニング1」の専任教員等の配置を「教授1」、「助教1」から「教授1」、「助教1」、「助教0」に変更。
 ・ 職位の変更のため、「上級臨床トレーニング2」の専任教員等の配置を「教授1」、「助教1」から「教授1」、「助教1」、「助教0」に変更。
 ・ 職位の変更のため、「歯科矯正学における写真とコンピューター」の専任教員等の配置を「教授1」、「助教1」から「教授1」、「助教1」、「助教0」に変更。
 ・ 職位の変更のため、「歯科矯正学教育実習」の専任教員等の配置を「助教2」から「教授1」、「准教授1」、「助教0」に変更。

(注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

	設置時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
東京医科歯科大学	1 科目	6 科目	科目	7 科目	1 科目	6 科目	科目	7 科目	
チュラロンコン大学	14 科目	3 科目	科目	17 科目	14 科目	3 科目	科目	17 科目	
共同開設科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
			該当なし				

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	チュラロンコーン大学	歯科用写真	1	5前	一般	選択	授業内容をより充実させるため、類似している「歯科用写真」及び「歯科矯正学におけるコンピューター」を1科目に統合したため(29)
2	チュラロンコーン大学	歯科矯正学におけるコンピューター	1	5前	一般	選択	同上

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

チュラロンコーン大学が開設する選択科目「歯科用写真」及び「歯科矯正学におけるコンピューター」を「歯科矯正学における写真とコンピューター」の1科目に統合したことについては、学生が教授される内容は改編前と改編後において同様のものであるため、学生に不利益が生じることは無い。
 平成28年度入学者選抜試験の情報を掲載したホームページに掲載しており、平成28年8月に入学した学生への影響はない。(29)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{22} = \boxed{9.09} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	77,695 m ²	0 m ²	0 m ²	77,695 m ²			
	運動場用地	19,972 m ²	0 m ²	0 m ²	19,972 m ²			
	小 計	97,667 m ²	0 m ²	0 m ²	97,667 m ²			
	そ の 他	13,929 m ²	0 m ²	0 m ²	13,929 m ²			
	合 計	111,596 m ²	0 m ²	0 m ²	111,596 m ²			
(2) 校 舎	専 用	125,398 m ²	0 m ²	0 m ²	125,398 m ²			
	(125,398 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(125,398 m ²)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	申請大学全体		
	83 室	52 室	556 室	2 室 (補助職員 人)	0 室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		研究室を改修し、2室を1室に結合したため (29)		
	東京医科歯科大学・チュロンコン大学国際連携歯学系専攻			19 18 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	専攻単位での特定不能なため、申請大学全体の数 図書及び視聴覚資料は増加させている (29) 図書は重複資料等の整理を行ったため減っている。 学術雑誌は和雑誌が1減、洋雑誌が2贈となっている。 視聴覚資料は増加させている (30)
	東京医科歯科大学・チュロンコン大学国際連携歯学系専攻	317,937 [139,687] 322,450 [142,501] 218,617 [123,767]	3,721 [2,062] 3,720 [2,060] 3,490 [1,974]	8,391 [7,100] 7,389 [6,332] 8,809 [7,778]	1,449 1,405 388	497	55,862	
		317,937 [139,687] 322,450 [142,501] 218,617 [123,767]	3,721 [2,062] 3,720 [2,060] 3,490 [1,974]	8,391 [7,100] 7,389 [6,332] 8,809 [7,778]	1,449 1,405 388			
	計	317,937 [139,687] 322,450 [142,501] 218,617 [123,767]	3,721 [2,062] 3,720 [2,060] 3,490 [1,974]	8,391 [7,100] 7,389 [6,332] 8,809 [7,778]	1,449 1,405 388	(497)	(55,862)	
		317,937 [139,687] 322,450 [142,501] 218,617 [123,767]	3,721 [2,062] 3,720 [2,060] 3,490 [1,974]	8,391 [7,100] 7,389 [6,332] 8,809 [7,778]	1,449 1,405 388			
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 図書館改修のため(29)	
	5,513 -5,677 m ²		433 426		377,000 383,000			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	1,662 m ²		柔剣道場、武道館、弓道場、プール					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人当り研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円
	共 同 研 究 費 等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし						

項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

※国際連携学科等に係る申請大学の状況を記載し、連携外国大学の状況は含めないでください。

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	東京医科歯科大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定学員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
医歯学総合研究科 (修士課程)								東京都文京区湯島 1-5-45
医歯理工保健学専攻	2	131	-	131	修士(医科学) (歯科学) (理学) (工学) (保健学) (口腔保健学) (医療管理学) (医療政策学) (グローバル健康医学)	0.95	H30年度	
医歯理工学専攻	2	-	-	-	修士(医科学) (歯科学) (理学) (工学) (口腔保健学) (医療管理学) (医療政策学)	-	H24年度	平成30年度より学生募集停止
(博士課程)								
医歯学専攻	4	181	-	181	博士(医学) (歯学) (数理医科学) (学術)	1.13	H30年度	
生命理工医療科学専攻	3	25	-	25	博士(理学) (工学) (保健学)	0.88	H30年度	
医歯学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H24年度	平成30年度より学生募集停止
生命理工学系専攻	3	-	-	-	博士(理学) (工学)	-	H24年度	平成30年度より学生募集停止
口腔機能再構築学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より学生募集停止
顎顔面頸部機能再建学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H11年度	平成24年度より学生募集停止
生体支持組織学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より学生募集停止
環境社会医歯学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より学生募集停止
老化制御学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より学生募集停止
全人的医療開発学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H11年度	平成24年度より学生募集停止
認知行動医学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H11年度	平成24年度より学生募集停止
生体環境応答学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より学生募集停止
器官システム制御学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より学生募集停止
先端医療開発学系専攻	4	-	-	-	博士(医学) (歯学) (学術)	-	H12年度	平成24年度より学生募集停止

東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻	5	3	—	9	博士（医学）	0.33	H28年度		
東京医科歯科大学・チュラロンコン大学国際連携歯学系専攻	5	3	—	6	博士（歯学）	0.66	H28年度		平成28年度8月開設
保健衛生学研究科 （博士課程（前期）） 生体検査科学専攻	2	—	—	—	修士（保健学）	—	H13年度		平成30年度より学生募集停止
（博士課程（後期）） 総合保健看護学専攻	3	—	—	—	博士（看護学）	—	H13年度		平成28年度より学生募集停止
生体検査科学専攻	3	—	—	—	博士（保健学）	—	H13年度		平成30年度より学生募集停止
（博士課程） 看護先進科学専攻	5	13	—	65	博士（看護学）	1.01	H26年度		
共同災害看護学専攻	5	2	—	10	博士（看護学）	1.10	H26年度		
大学の名称	東京医科歯科大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学定員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
医学部	年	人	年次 2年次	人		倍		東京都文京区湯島 1-5-45	
医学科	6	101	5	631	学士（医学）	1.00	S26年度		
保健衛生学科	4	90		360	学士（看護学）、 学士（保健学）	1.01	H元年度		
歯学部									
歯学科	6	53	2年次	318	学士（歯学）	1.00	S26年度		
口腔保健学科	4	32	3年次 6	155	学士（口腔保健学）	1.03	H16年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表

<東京医科歯科大学>

【認可時又は届出時】

【平成29年度】

【平成30年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	森山 啓司 (54) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実習 顎顔面矯正学実験・論文作成
専	教授	小野 卓史 (53) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究実習 咬合機能矯正学実験・論文作成
専	教授	倉林 亨 (59) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	東 みゆき (58) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	柴田 俊一 (58) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	水口 俊介 (58) <平成28年8月>
		研究指導

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	森山 啓司 (55) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実習 顎顔面矯正学実験・論文作成
専	教授	小野 卓史 (54) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究実習 咬合機能矯正学実験・論文作成
専	教授	倉林 亨 (60) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	東 みゆき (59) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	柴田 俊一 (59) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	水口 俊介 (58) <平成28年8月>
		研究指導

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	教授	森山 啓司 (56) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実習 顎顔面矯正学実験・論文作成
専	教授	小野 卓史 (55) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究実習 咬合機能矯正学実験・論文作成
専	教授	倉林 亨 (61) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	東 みゆき (60) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	柴田 俊一 (60) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	水口 俊介 (59) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	森尾 郁子 (58) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	川淵 孝一 (56) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	原田 清 (55) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	若林 則幸 (54) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	三浦 雅彦 (53) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専(調)	教授	森尾 郁子 (59) <平成29年1月>
		研究指導
専	教授	鈴木 敏彦 (52) <平成29年2月>
		研究指導
専	教授	川淵 孝一 (57) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	原田 浩之 (52) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	若林 則幸 (54) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	三浦 雅彦 (54) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専(調)	教授	森尾 郁子 (60) <平成29年1月>
		研究指導
専	教授	鈴木 敏彦 (53) <平成29年2月>
		研究指導
専	教授	川淵 孝一 (58) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	原田 浩之 (53) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	若林 則幸 (55) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	三浦 雅彦 (55) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	宇尾 基弘 (52) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	井関 祥子 (51) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	豊福 明 (51) <平成28年8月>
		研究指導
専	准教授	大渡 凡人 (58) <平成28年8月>
		研究指導
専	准教授	横山 三紀 (57) <平成28年8月>
		研究指導
専	准教授	青木 和広 (54) <平成28年8月>
		研究指導
専	准教授	上野 俊明 (49) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	宇尾 基弘 (53) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	井関 祥子 (52) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	豊福 明 (51) <平成28年8月>
		研究指導
専	講師	二階堂 徹 (57) <平成28年8月>
		研究指導
専	准教授	横山 三紀 (58) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	青木 和広 (55) <平成29年2月>
		研究指導
専	准教授	上野 俊明 (50) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	宇尾 基弘 (54) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	井関 祥子 (53) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	豊福 明 (52) <平成28年8月>
		研究指導
専	講師	二階堂 徹 (58) <平成28年8月>
		研究指導
専	准教授	横山 三紀 (59) <平成28年8月>
		研究指導
専	教授	青木 和広 (56) <平成29年2月>
		研究指導
専	准教授	上野 俊明 (51) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	准教授	中島 友紀 (46) <平成28年8月>
		研究指導
専	講師	松本 芳郎 (51) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	講師	簡野 瑞誠 (46) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	講師	小川 卓也 (43) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	講師	細道 純 (40) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	講師	吉野 教夫 (57) <平成28年8月>
		研究指導
専	講師	立川 敬子 (56) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	中島 友紀 (47) <平成28年3月>
		研究指導
専	講師	松本 芳郎 (52) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	講師	簡野 瑞誠 (47) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	講師	小川 卓也 (44) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	講師	細道 純 (41) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	講師	吉野 教夫 (58) <平成28年8月>
		研究指導
専	講師	立川 敬子 (57) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	教授	中島 友紀 (48) <平成28年3月>
		研究指導
専	講師	松本 芳郎 (53) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	講師	簡野 瑞誠 (48) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	講師	小川 卓也 (45) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	講師	細道 純 (42) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	講師	吉野 教夫 (59) <平成28年8月>
		研究指導
専	講師	立川 敬子 (58) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	辻 美千子 (49) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	東堀 紀尚 (42) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	小林 起穂 (42) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	島崎 一夫 (40) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	渡 一平 (40) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	小海 暁 (39) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	辻 美千子 (50) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	東堀 紀尚 (42) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	小林 起穂 (42) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	島崎 一夫 (41) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	渡 一平 (41) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	助教	辻 美千子 (51) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	東堀 紀尚 (43) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	小林 起穂 (43) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	島崎 一夫 (42) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	渡 一平 (42) <平成28年8月>
		咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	米満 郁男 (39) <平成28年8月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	宮本 順 (39) <平成28年8月> 顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	石田 宝義 (37) <平成28年8月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	石田 雄之 (36) <平成28年8月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	鈴木 聖一 (63) <平成29年4月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	米満 郁男 (40) <平成28年8月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	宮本 順 (40) <平成28年8月> 顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	石田 宝義 (38) <平成28年8月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	伊藤 洋介 (33) <平成28年8月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	准教授	鈴木 聖一 (64) <平成29年4月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	米満 郁男 (41) <平成28年8月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	宮本 順 (41) <平成28年8月> 顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	石田 宝義 (39) <平成28年8月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成
専	助教	伊藤 洋介 (34) <平成28年8月> 咬合機能矯正学特論 咬合機能矯正学研究 実習 咬合機能矯正学実 験・論文作成

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専(調)	助教	Thunyaporn Surpornasawad (30) <平成28年8月>
		顎顔面矯正学特論 顎顔面矯正学研究実 習 顎顔面矯正学実験・ 論文作成
専	助教	島田 康史 (55) <平成28年8月>
		研究指導
専	助教	中久木 康一 (44) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	講師	中島 正俊 (56) <平成29年2月>
		研究指導
専	助教	中久木 康一 (45) <平成28年8月>
		研究指導

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
専	講師	中島 正俊 (57) <平成29年2月>
		研究指導
専	助教	中久木 康一 (46) <平成28年8月>
		研究指導

<チュラロンコン大学>

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	教授相当	Smorntree Viteporn <平成28年8月>
		包括的治療手順 上級矯正臨床トレーニング1 論文・博士論文セミナー 研究指導
外国	教授相当	Somporn Swasdison <平成28年8月>
		矯正臨床トレーニング1 上級矯正臨床トレーニング2 研究指導
外国	教授相当	Pasutha Thunyakitpibal <平成28年8月>
		歯科用写真 歯科矯正学における コンピューター
外国	准教授相当	Vachara Phetcharakupt <平成28年8月>
		矯正臨床トレーニング2 矯正臨床トレーニング3
外国	准教授相当	Porntip Chiewcharat <平成28年8月>
		矯正臨床トレーニング2 上級矯正臨床トレーニング1

【平成29年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	教授相当	Smorntree Viteporn <平成28年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学技法 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 上級矯正臨床トレーニング1 研究指導
外国	教授相当	Somporn Swasdison <平成28年8月>
		歯科矯正学基礎 矯正臨床トレーニング1 上級矯正臨床トレーニング2 研究指導
外国	教授相当	Pasutha Thunyakitpibal <平成28年8月>
		歯科矯正学における 写真とコンピューター

【平成30年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	教授相当	Smorntree Viteporn <平成28年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学技法 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 上級矯正臨床トレーニング1 研究指導
外国	教授相当	Somporn Swasdison <平成28年8月>
		歯科矯正学基礎 矯正臨床トレーニング1 上級矯正臨床トレーニング2 研究指導
外国	教授相当	Pasutha Thunyakitpibal <平成28年8月>
		歯科矯正学における 写真とコンピューター

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	准教授相当	Chintana Sirichompun <平成28年8月>
		歯科矯正学総論 歯科矯正学技法 矯正臨床トレーニング3 基礎歯科矯正学セミナー 研究指導
外国	准教授相当	Sirima Petdachai <平成28年8月>
		矯正臨床トレーニング1 研究指導
外国	准教授相当	Oranart Matangkasombut <平成28年8月>
		歯科用写真 歯科矯正学におけるコンピューター
外国	講師相当	Pintu-on Chantarawatit <平成28年8月>
		歯科矯正学総論 歯科矯正学技法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	准教授相当	Chintana Sirichompun <平成28年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学基礎 歯科矯正学技法 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 矯正臨床トレーニング3 研究指導
外国	准教授相当	Sirima Petdachai <平成28年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学総論 歯科矯正学基礎 歯科矯正学技法 矯正演習 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 矯正臨床トレーニング1 論文・博士論文セミナー 研究指導
外国	講師相当	Pintu-on Chantarawatit <平成28年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学総論 歯科矯正学基礎 矯正演習 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 論文・博士論文セミナー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	准教授相当	Chintana Sirichompun <平成28年8月>
		歯科矯正学基礎 歯科矯正学技法 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 矯正臨床トレーニング3 研究指導
外国	准教授相当	Sirima Petdachai <平成28年8月>
		歯科矯正学総論 歯科矯正学基礎 歯科矯正学技法 矯正演習 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 矯正臨床トレーニング1 論文・博士論文セミナー 研究指導
外国	講師相当	Pintu-on Chantarawatit <平成28年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学総論 歯科矯正学基礎 矯正演習 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 論文・博士論文セミナー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	講師相当	Chidsanu Changsiripun <平成28年8月>
		歯科矯正学基礎 基礎歯科矯正学セミナー
外国	助教相当	Kanok Sorathesn <平成28年8月>
		矯正臨床トレーニング3 上級矯正臨床トレーニング1
外国	助教相当	Somsak Chengprapakorn <平成28年8月>
		矯正臨床トレーニング1 上級矯正臨床トレーニング2
外国	助教相当	Korapin Mahatummarat <平成28年8月>
		歯科矯正学基礎 矯正臨床トレーニング2
外国	助教相当	Niramol Chamnannidiadha <平成28年8月>
		矯正演習 歯科矯正学教育実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	講師相当	Chidsanu Changsiripun <平成28年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学技法 矯正演習 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 論文・博士論文セミナー
外国	助教相当	Kanok Sorathesn <平成28年8月>
		矯正臨床トレーニング3 上級矯正臨床トレーニング1
外国	助教相当	Korapin Mahatummarat <平成28年8月>
		歯科矯正学基礎 歯科矯正学技法 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 矯正臨床トレーニング2
外国	助教相当	Niramol Chamnannidiadha <平成28年8月>
		歯科矯正学総論 歯科矯正学技法 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 歯科矯正学教育実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	准教授相当	Chidsanu Changsiripun <平成29年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学技法 矯正演習 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 論文・博士論文セミナー
外国	准教授相当	Kanok Sorathesn <平成29年8月>
		矯正臨床トレーニング3 上級矯正臨床トレーニング1 包括的治療手順
外国	准教授相当	Korapin Mahatummarat <平成29年8月>
		歯科矯正学基礎 歯科矯正学技法 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 矯正臨床トレーニング2
外国	准教授相当	Niramol Chamnannidiadha <平成29年8月>
		歯科矯正学総論 歯科矯正学技法 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 歯科矯正学教育実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	助教相当	Prasit Pavasant <平成28年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学教育実習
外国	助教相当	Paiboon Techalertpaisarn <平成28年8月>
		上級矯正臨床トレーニング2 上級歯科矯正学セミナー 歯科用写真 歯科矯正学における コンピューター

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	助教相当	Prasit Pavasant <平成28年8月>
		歯科矯正学基礎 歯科矯正学教育実習
外国	助教相当	Paiboon Techalertpaisarn <平成28年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学基礎 矯正演習 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 論文・博士論文セミナー 上級矯正臨床トレーニング2 歯科矯正学における 写真とコンピューター
外国	助教相当	Wantanee Mutirangura <平成28年8月>
		包括的治療手順
外国	講師相当	Panun Sastravaha <平成28年8月>
		包括的治療手順

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
外国	教授相当	Prasit Pavasant <平成29年8月>
		歯科矯正学基礎 歯科矯正学教育実習
外国	准教授相当	Paiboon Techalertpaisarn <平成29年8月>
		包括的治療手順 歯科矯正学基礎 矯正演習 基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 論文・博士論文セミナー 上級矯正臨床トレーニング2 歯科矯正学における 写真とコンピューター
外国	准教授相当	Wantanee Mutirangura <平成29年8月>
		包括的治療手順
外国	講師相当	Panun Sastravaha <平成28年8月>
		包括的治療手順
外国	講師相当	Sirichom Satrawaha <平成29年8月>
		基礎歯科矯正学セミナー 上級歯科矯正学セミナー 論文・博士論文セミナー

-
- (注)
- ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任、兼担、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、
詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

<東京医科歯科大学>

【平成29年度】

- 平成27年3月に調整教員を担当していた専任教員のThunyaporn Surpornasawad助教が就任を辞退したため、森尾郁子教授に変更。
- 平成29年3月に専任教員の小海暁助教が他機関へ転出したため、「研究指導」の担当者として専任教員の鈴木敏彦教授が就任。
- 平成28年1月に専任教員の原田清教授が死亡したため、「研究指導」の担当者を専任教員の原田浩之教授に変更。
- 平成28年8月に専任教員の大渡凡人准教授が他大学へ転出したため、「研究指導」の担当者を専任教員の二階堂徹講師に変更。
- 平成29年2月に専任教員の青木和広准教授が教授に職位が変更。
- 平成28年3月に専任教員の中島友紀准教授が教授に職位が変更。
- 平成29年3月に専任教員の小海暁助教が任期満了により退職したため、「咬合機能矯正学特論」、「咬合機能矯正学研究実習」及び「咬合機能矯正学実験・論文作成」の担当者を専任教員の鈴木聖一准教授に変更。
- 平成28年4月に専任教員の石田雄之助教が医員（非常勤）になったため、「咬合機能矯正学特論」、「咬合機能矯正学研究実習」及び「咬合機能矯正学実験・論文作成」の担当者を専任教員の伊藤洋介助教に変更。
- 平成29年1月に専任教員の島田康史助教が他大学へ転出したため、「研究指導」の担当者を専任教員の中島正俊講師に変更。

【平成30年度】

特になし。

<チュロンコン大学>

【平成29年度】

- 平成28年8月にSmorntree Viteporn教授相当が新規科目の「歯科矯正学技法」、「基礎歯科矯正学セミナー」及び「上級歯科矯正学セミナー」を担当。
- 平成28年8月にSomporn Swadison教授相当が「歯科矯正学基礎」を担当。
- 平成28年8月にChintana Sirichompun准教授相当が「包括的治療手順」、「歯科矯正学基礎」及び「上級歯科矯正学セミナー」を担当。
- 平成28年8月にSirima Petdachai准教授相当が「包括的治療手順」、「歯科矯正学総論」、「歯科矯正学基礎」、「歯科矯正学技法」、「矯正演習」、「基礎歯科矯正学セミナー」、「上級歯科矯正学セミナー」及び「論文・博士論文セミナー」を担当。
- 平成28年8月にPintu-on Chantarawatit講師相当が「包括的治療手順」、「歯科矯正学基礎」、「矯正演習」、「基礎歯科矯正学セミナー」、「上級歯科矯正学セミナー」及び「論文・博士論文セミナー」を担当。
- 平成28年8月にChidsanu Changsiripun講師相当が「包括的治療手順」、「歯科矯正学技法」、「矯正演習」、「上級歯科矯正学セミナー」及び「論文・博士論文セミナー」を担当。
- 平成28年8月にKorapin Mahatummarat助教相当が「歯科矯正学技法」、「基礎歯科矯正学セミナー」及び「上級歯科矯正学セミナー」を担当。
- 平成28年8月にNiramol Chamnannidiadha助教相当が「歯科矯正学総論」、「歯科矯正学技法」、「基礎歯科矯正学セミナー」、「上級歯科矯正学セミナー」、「論文・博士論文セミナー」及び「歯科矯正学における写真とコンピューター」を担当。
- 平成28年8月にPrasit Pavasant助教相当が「歯科矯正学基礎」を担当。
- 平成28年8月にPaiboon Techalertpaisarn助教相当が「包括的治療手順」、「歯科矯正学基礎」、「矯正演習」及び「基礎歯科矯正学セミナー」を担当。
- 平成28年9月にVachara Phetcharakupt教授相当が死亡したため、担当者変更。後任は未定。
- 平成28年8月に「包括的治療手順」の担当者としてWantanee Mutirangura助教相当及びPanun Sastravaha助教相当が就任。

【平成30年度】

- 平成29年8月にKanok Sorathesn 准教授相当が「包括的治療手順」を担当。
- 平成29年8月にSirichom Satrawaha講師相当が「基礎歯科矯正学セミナー」、「上級歯科矯正学セミナー」及び「論文・博士論文セミナー」を担当。
- 平成29年8月にSirima Petdachai准教授相当が「包括的治療手順」を担当。
- 平成29年8月にChidsanu Changsiripun講師相当が准教授相当に職位が変更。
- 平成29年8月にKanok Sorathesn助教相当が准教授相当に職位が変更。
- 平成29年8月にKorapin Mahatummarat助教相当が准教授相当に職位が変更。
- 平成29年8月にNiramol Chamnannidiadha助教相当が准教授相当に職位が変更。
- 平成29年8月にPrasit Pavasant助教相当が准教授相当に職位が変更。
- 平成29年8月にPaiboon Techalertpaisarn助教相当が准教授相当に職位が変更。
- 平成29年8月にWantanee Mutirangura助教相当が准教授相当に職位が変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省庁となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員（同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員（研究指導教員等）が兼ねて担当する場合も含める）について記入してください。

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
18 名	12 名	研究指導教員数と研究指導補助教員数を合わせて36以上 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
14	5	6	13	38	17	3	8	10	38	17	3	8	10	38
(14)	(5)	(6)	(13)	(38)						[3]	[Δ2]	[2]	[Δ3]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
25	13	0			28	10	0			28	10	0		
(25)	(13)	(0)								[3]	[Δ3]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{38}{38} = 100\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{38} = 0\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(注)・本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員(同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員研究指導教員等)が兼ねて担当する場合も含める)について記入してください。

(3) - ① 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由				
1	助教	Thunyaporn Surpornasawasd	選択	顎顔面矯正学特論	①	他機関へ就職のため就任辞退(29)				
				顎顔面矯正学研究実習	①					
				顎顔面矯正学実験・論文作成	①					
合計(D)				後任補充状況の集計(E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)		
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- 「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1	教授	原田 清	必修	(研究指導)	①	死亡のため(29)				
2	准教授	大渡 凡人	必修	(研究指導)	①	他大学への転出のため退職(29)				
3	助教	小海 暁	選択	咬合機能矯正学特論	①	他機関への転出のため退職(29)				
			選択	咬合機能矯正学研究実習						
			選択	咬合機能矯正学実験・論文作成						
4	助教	石田 雄之	選択	咬合機能矯正学特論	①	医員(非常勤)に職位変更のため退職(29)				
			選択	咬合機能矯正学研究実習						
			選択	咬合機能矯正学実験・論文作成						
5	助教	島田 康史	必修	(研究指導)	①	他大学に転出のため退職(29)				
合計(F)				後任補充状況の集計(G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)		
5	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目
		選択	6	科目	選択	6	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	9	科目	計	0	科目

- (注)・一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
6	人	必修	3 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	9 科目	選択	9 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	12 科目	計	12 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{6}{38} = \boxed{15.78} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
合計				後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>就任辞退をした教員が担当していた科目については、不足なく後任補充を行った。また、指導教員を通じて学生へは履修に支障がない旨、十分に説明を行った。</p> <p>なお、調整教員を変更するにあたり、十分な資質を有する森尾郁子教授を置いた。森尾教授は本学歯学部歯学科を卒業後、本学歯学研究科博士課程を修了し、平成21年から国際交流センター長を務めていた。現在、統合国際機構グローバル企画・推進部門に所属し、国際的な活動経験が豊富である。特にタイの文化に精通しており、チュラロンコン大学との調整も円滑に行うことができる。また、英語でのコミュニケーションについても、全国社会福祉協議会国際部での通訳・翻訳の経歴を持ち、対外調整を行う十分な能力を保有している。タイ語でのコミュニケーションについては、タイ国籍の非常勤教員を本学のタイ視点に配置し、支援を行う体制を取っている。(29)</p>
--

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区分	留意事項等		履行状況	未履行事項についての実施計画
設置時 (平成28年4月)	1. 研究指導に係る連携外国大学との責任や役割分担について、東京医科歯科大学側についてはある程度明確にされているが、チュラロンコン大学側の内容は不明確であるため、双方の役割分担等を更に明確にして、研究指導に支障が生じないように準備に万全を期すこと。	留意事項	東京医科歯科大学教員3名及びチュラロンコン大学教員8名から成るコース管理委員会を設置した。 (29) 平成30年4月27日に開催されたコース管理委員会にて、下記の点について合意した。 ①学生指導に関して両機関の指導教員が連携してメール、スカイプ等を使用して学生指導を行い、学生の意向を確認のもと、主担当教員、副担当教員が等しく責任を持って指導する。 ②コース管理委員会を毎月開催し、プログラム運営に係るすべての事項について、月1回のコース管理委員会において協議し、両大学の合意の下に運営する。 ③学生が不良行為を行った場合は、滞在している国の法律及び両大学の学則に従うこととした。(30)	学生の研究等が本格的に始まる時期が2年次であるため、平成29年5月に開催予定のコース管理委員会にて以下を検討する。 ①コース管理委員会が学生の研究指導の方針について責任を持って指導する。 ②指導体制、プログラム運営の責任及び役割分担を明確化する。(29)
	2. 入学資格に国籍を制限していないにも関わらず、研究指導や履修指導等において国籍を基準として区別する方法は不適切である。入学時の窓口で区別するか、医師資格の国で区別するなど、適切な方法で区別するよう改めること。	留意事項	本件については設置認可申請書を修正し申請したため、対応済みである。 申請資料：設置の趣旨を記載した書類(6)研究指導の方法(20ページ) 修正前「研究テーマも考慮するが、原則、タイ人の場合はチュラロンコン大学の教員が主担当となり、責任を持って指導を行い、日本人学生の場合は東京医科歯科大学の教員が主担当を務め、責任を持って指導を行う。」 修正後「研究テーマも考慮するが、原則、チュラロンコン大学で入学手続きを行った学生はチュラロンコン大学の教員が主担当となり、責任を持って指導を行い、東京医科歯科大学で入学手続きを行った学生は東京医科歯科大学の教員が主担当を務め、責任を持って指導を行う。」 (29)	履行済

<p>3. 年間の研究指導計画や成績評価基準が不明確であるため、学生が十分に理解できるよう、あらかじめ十分な説明を行うこと。</p>	<p>留意事項</p>	<p>入学間もない時期（コース開始直後8月初頭）に入学者ガイダンスを実施することとしており、2016年度入学者に関しては、チュラロンコーン大学の教員及び本学の教員が、2016年8月16日・17日に以下についてガイダンスを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JDP設立の経緯 ・MOU（協定書） ・カリキュラム構成 ・履修科目 ・授業料及び支払方法 ・TMDUの寮 ・第1 Semesterで修得すべき11単位の科目の履修登録 <p>(29)</p>	<p>履行済</p>	
<p>4. 連携外国大学との調整を行う教員に関する業績等が明らかでないが、調整を行い得る十分な能力を持った者を配置し、連携外国大学との連絡調整に支障をきたすことのないよう十分な体制を構築すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>連携外国大学と調整を行う教員は、本学歯学部歯学科を卒業後、本学歯学研究科博士課程を修了し、平成21年から国際交流センター長を務めていた。現在、統合国際機構グローバル企画・推進部門に所属し、国際的な活動経験が豊富である。特にタイの文化に精通しており、チュラロンコーン大学との調整も円滑に行うことができる。また、英語でのコミュニケーションについても、全国社会福祉協議会国際部での通訳・翻訳の経歴を持ち、対外調整を行う十分な能力を保有している。タイ語でのコミュニケーションについては、タイ国籍の非常勤教員を本学のタイ拠点に配置し、支援を行う体制を取っている。</p> <p>(29)</p>	<p>履行済</p>	
<p>5. 本専攻が研究対象とする中心的な学問分野が歯科矯正学であるにも関わらず、専攻名称を歯学系と包括的な名称とすることについては社会一般や学生等の誤解を生じさせないように努めること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>①募集要項に本専攻の概要を記載し、中心的な学問分野が歯科矯正学であることを明確にし、また、入学直後のガイダンス時にも本専攻の中心的な学問分野について十分に説明することで、学生等に誤解を生じさせないように努めた。</p> <p>②社会一般に対しては本専攻の概要をホームページで説明することで、中心的な学問分野が歯科矯正学であることを明確化し、社会一般の誤解を生じさせないように努めた。</p> <p>③なお、将来的には専攻分野の拡大も視野に入れているため、専攻名称については包括的な名称としている。(29)</p>	<p>履行済</p>	

<p>6. 協定書の締結にあたっては、申請書に示されている内容を確実に反映させること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>両大学の教員からなるコース管理委員会を設置し、協定書に則り、プログラムを運営する。プログラム委員会は定期的に開催している。</p> <p>開催実績：</p> <p>第1回 平成27年11月25日 第2回 平成27年11月26日 第3回 平成28年1月21日 第4回 平成28年2月17日 第5回 平成28年3月16日 第6回 平成28年3月23日 第7回 平成28年3月30日 第8回 平成28年4月5日 第9回 平成28年4月19日 第10回 平成28年5月24日 第11回 平成28年6月9日 第12回 平成28年7月12日 第13回 平成28年8月17日 第14回 平成28年9月20日 第15回 平成28年11月15日 第16回 平成29年1月12日 第17回 平成29年3月2日 第18回 平成29年4月18日 (29)</p> <p>第19回 平成29年6月20日 第20回 平成29年7月27日 第21回 平成29年9月12日 第22回 平成29年11月1日 第23回 平成29年12月12日 第24回 平成30年1月16日 第25回 平成30年2月23日 第26回 平成30年3月27日 第27回 平成30年4月27日 (30)</p>	<p>履行済</p>
---	-------------	--	------------

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<医歯学総合研究科 東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①協定書 Agreement on Establishment of a Joint Degree Program Between Tokyo Medical and Dental University (TMDU), Japan and Chulalongkorn University (CU), Thailand 日本国東京医科歯科大学 (TMDU) とタイ国チュラロンコーン大学 (CU) とのジョイントディグリープログラム開設に関する協定書	(変更内容) Academic Cooperation Agreement on Establishment of a Joint Degree Program Between Tokyo Medical and Dental University (TMDU), Japan and Chulalongkorn University (CU), Thailand 日本国東京医科歯科大学 (TMDU) とタイ国チュラロンコーン大学 (CU) とのジョイントディグリープログラム開設に関する学術協力協定書
21. Intellectual Property Rights In case any invention is made under the aegis of the JD Program, each party shall promptly report the invention and inventors(s) thereof to the other parties. All issues regarding publication and/or patent of the invention shall be determined through bilateral consultation. No party shall disclose the invention to a third party without the prior written consent of the other parties. 21. 知的財産権の扱い JD プログラムにおいて発明があった場合、その発明及び発明者について相手機関に早急に伝えること。公表又は特許に関しては両大学の協議により定める。書面上の同意なしに公表してはならない。	21. Intellectual Property Rights In case any invention is made in connection with or through the JD Program, each party shall promptly report the invention and inventors(s) thereof to the other party. All issues regarding publication and/or patent of the invention shall be determined through bilateral consultation. No party shall disclose the invention to a third party without the prior written consent of the other party. 21. 知的財産権の扱い JDプログラムにおいて発明があった場合、その発明及び発明者について相手機関に早急に伝えること。公表又は特許に関しては両大学の協議により定める。書面上の同意なしに第三者に開示してはならない。
29. Assessment of Performance (1) Accreditation of each course shall be conducted by the university where said course is implemented. Jointly operated courses shall be conducted by both universities jointly. (2) The teaching staff in charge of each course shall accredit the course based on exam, report of research, etc., at the end of the semester or academic year. (3) At TMDU, the performance of students shall be graded on a 5-point scale, namely 4, 3, 2, 1 and 0. Only students achieving one of the first four grades will be deemed to have passed the course. (4) At CU, the performance of students shall be graded on an 8-point scale, namely A, B+, B, C+, C, D+, D and F. Only students achieving one of the first four grades will be deemed to have passed the course. (5) Both universities clarify performance standards by adoption of GPA and 10 other appraisal standards. And academic staffs of both universities confirm students' academic score mutually and make rigorous academic assessment by ensuring transparency and objectivity. 29. 成績評価 (1) 授業科目の単位の認定は、その科目を開設する大学が行うものとする。ただし、両大学が共同で実施する科目については、両大学が共同して行うものとする。 (2) 各授業科目の履修(単位)の認定は、試験又は研究報告等により、授業科目担当教員が学期末又は学年末に行う。 (3) TMDU における各授業科目の成績は、0 から4 までの5種の点数で評価され、「1」以上を合格とする。 (4) CU における各授業科目の成績は、A, B+, B, C+, C, D+, D, F の8 種で評価され、「C+」以上を合格とする。 (5) 両大学は、GPA や他の評価基準の導入によって、達成すべき基準を明確にさせる。両大学の教員は、相互に学生の成績を確認するなど、透明性と客観性を確実にすることによって、厳格な成績評価を行う。	29. Assessment of Performance (1) Accreditation of each course shall be conducted by the university where said course is implemented. Jointly operated courses shall be conducted by both universities jointly. (2) The teaching staff in charge of each course shall accredit the course based on exam, report of research, etc., at the end of the semester or academic year. (3) Both universities clarify performance standards by adoption of GPA and other appraisal standards. The other appraisal standards are specified separately. (4) Academic staffs of both universities confirm students' academic score mutually and make rigorous academic assessment by ensuring transparency and objectivity. 29. 成績評価 (1) 授業科目の単位の認定は、その科目を開設する大学が行うものとする。ただし、両大学が共同で実施する科目については、両大学が共同して行うものとする。 (2) 各授業科目の履修(単位)の認定は、試験又は研究報告等により、授業科目担当教員が学期末又は学年末に行う。 (3) 両大学は、GPAや他の評価基準の導入によって、達成すべき基準を明確にさせる。その評価基準については別に定める。 (4) 両大学の教員は、相互に学生の成績を確認するなど、透明性と客観性を確実にすることによって、厳格な成績評価を行う。

<p>President Professor Dr. Yasuyuki Yoshizawa Tokyo Medical and Dental University (TMDU)</p> <p>President Professor Dr. Pirom Kamolratanakul Chulalongkorn University (CU)</p> <p>学長 吉澤靖之 東京医科歯大学 (TMDU)</p> <p>学長 Dr. Pirom Kamolratanakul チュラロンコーン大学 (CU)</p>	<p>Dr. Yasuyuki Yoshizawa President Tokyo Medical and Dental University (TMDU)</p> <p>Dr. Pirom Kamolratanakul President Chulalongkorn University (CU)</p> <p>Dr. Keiji Moriyama Dean, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical and Dental University (TMDU)</p> <p>Dr. Suchit Poolthong Dean, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University (CU)</p> <p>吉澤靖之 学長 東京医科歯大学 (TMDU)</p> <p>Dr. Pirom Kamolratanakul 学長 チュラロンコーン大学 (CU)</p> <p>森山啓司 歯学部長 歯学部 東京医科歯大学 (TMDU)</p> <p>Dr. Suchit Poolthong 歯学部長 歯学部 チュラロンコーン大学 (CU) (29)</p>
<p>②設置の趣旨等を記載した書類</p>	<p>(変更内容)</p>
<p>別添資料参照。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類では、委員会を複数置くこととしていたが、委員会数が多く複雑であったため、審議内容が類似しているものを統合した。</p> <p>①次の3つの委員会を、コース管理委員会に統合した。 ・東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学合同委員会 ・選考委員会 ・助言委員会</p> <p>②次の3つの委員会を、博士論文委員会に統合した。 ・資格試験審査委員会 ・論文企画発表委員会 ・博士論文最終審査委員会</p> <p>上記により、連絡協議会、コース管理委員会、博士論文委員会が置かれている。 (29)</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 大学設置基準第51条2項に規定されている携外国大学との「協議の場」について、実施状況(開催日・議題等)を記載してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

東京医科歯科大学及びチュラロンコン大学合同のコース管理委員会を設置した。(29)

東京医科歯科大学及びチュラロンコン大学合同のコース管理委員会を毎月開催している。規則は別添参照(30)

b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む)

毎月1回開催しており、委員である教員の参加率は高い (今までに18回実施し、平均参加率は約90%である)。(29)

毎月1回開催しており、委員である教員の参加率は高い (平成29年6月から平成30年5月までに9回実施し、平均参加率は約90%である)。(30)

c 委員会の審議事項等

- (1) 入学者選抜に関する事項
- (2) 学生の身分 (在籍の管理) 及び安全に関する事項
- (3) 学生の奨学及び厚生補導に関する事項
- (4) カリキュラムの編成及び実施に関する事項
- (5) 教育組織の編成に関する事項
- (6) 成績評価の方針に関する事項
- (7) 研究指導教員の選定に係る事項
- (8) 評価試験委員会の設置に関する事項
- (9) 学位授与及び課程修了に関する事項
- (10) 教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- (11) その他両大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 授業評価アンケート結果のフィードバック (29)
- ・ 東京医科歯科大学教員及びチュラロンコン大学教員による合同研修 (29)
- ・ 自己点検評価 (30)
- ・ 外部評価 (30)

b 実施方法

1 年次履修科目の試験終了後に、学生に対し授業評価アンケートを行い、その結果を分析し報告書を作成する。その結果をもとに、2017年12月に開催される6大学サミットにおいてJDPの紹介及び外部からの評価を受け、教員やカリキュラムの質の向上を図る予定である。(29)

1 年次履修科目の試験終了後に、チュラロンコン大学において学生に対し授業評価アンケートを行い、その結果を両大学で共有し分析した。東京医科歯科大学及びチュラロンコン大学が協同で自己点検・評価報告書を作成し、その報告書を元に、外部評価を受審した。外部評価の結果は本プログラム運営教員で共有し、FD研修を実施した (30)

c 開催状況 (教員の参加状況含む)

FD研修は2017年12月に実施予定である。(29)

外部評価の実施及びチュラロンコン大学から本プログラムの運営に携わる教員を招聘し、東京医科歯科大学において結果の共有、2018年2月23日にFD研修を実施した。外部評価の結果の共有及びFD研修には両大学の研究指導教員、連絡協議会及びコース管理委員会の委員が出席した。(30)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

FD研修は2017年12月に実施予定である。(29)

両国の教育内容について共有することで、当該学位プログラムにより望ましい教育方法を取り入れることに役立った。(30)

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1 年次履修科目の試験終了後に、学生に対し授業評価アンケートを行う。(29)

1 年次履修科目の試験終了後に、学生に対し授業評価アンケートを行った。(30)

b 教員や学生への公開状況、方法等

コース管理委員会において審議・報告する予定である。(29)

コース管理委員会において審議・報告した。(30)

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>開設初年度のため今年度は実施できないが、来年度以降毎年度コース管理委員会で自己点検・評価を行う予定である。 (29) コース管理委員会で自己点検・評価報告書を作成した。(30)</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <ul style="list-style-type: none">・平成29年度実施後速やかに公表する(29)・平成29年度実施分については、平成30年3月にホームページに公開した(30) <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none">・大学ホームページ上に公開予定(29)・大学ホームページ上に公開(30) <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none">・東京医科歯科大学における認証評価は平成35年度までに審査を受ける予定である。(29)
--

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書</p> <p>a ホームページに公表（予定）の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ (<input type="radio"/> 無)</p> <p>b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成30年6月頃予定)</p>

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。